

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年11月6日(2008.11.6)

【公表番号】特表2008-514224(P2008-514224A)

【公表日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-534175(P2007-534175)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 9/22 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/7105 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/14 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 P 41/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 9/22 Z N A

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 A

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 31/7105

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 9/14

A 6 1 P 17/06

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 29/00 1 0 1

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02
A 6 1 P 35/04
A 6 1 P 37/04
A 6 1 P 41/00
A 6 1 P 43/00 1 0 1
A 6 1 P 43/00 1 0 5
A 6 1 P 43/00 1 1 1
A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月18日(2008.9.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 4 に対して少なくとも 85% 相同であるアミノ酸配列を有する T2 ファミリーの単離されたりボヌクレアーゼ蛋白質。

【請求項 2】

配列番号 4 に記載されるアミノ酸配列を有する T2 ファミリーの単離されたりボヌクレアーゼ蛋白質。

【請求項 3】

配列番号 4 に記載される、請求項 1 に記載の T2 ファミリーの単離されたりボヌクレアーゼ蛋白質。

【請求項 4】

アクチン結合活性によって特徴付けられる、請求項 1 または 2 に記載の T2 ファミリーの単離されたりボヌクレアーゼ蛋白質。

【請求項 5】

リボヌクレアーゼ活性を実質的に欠き、アクチン結合活性を有する、請求項 1 または 2 に記載の T2 ファミリーの単離されたりボヌクレアーゼ蛋白質。

【請求項 6】

前記リボヌクレアーゼ蛋白質は抗癌活性を有する、請求項 1 または 2 に記載の T2 ファミリーの単離されたりボヌクレアーゼ蛋白質。

【請求項 7】

請求項 1 に記載のリボヌクレアーゼ蛋白質をコードする第 1 のポリヌクレオチド、および異種発現系において前記ポリペプチドの発現を指令するための異種プロモーターを保有する第 2 のポリヌクレオチドを含む異種ポリヌクレオチド。

【請求項 8】

請求項 2 に記載のリボヌクレアーゼ蛋白質をコードする第 1 のポリヌクレオチド、および異種発現系において前記ポリペプチドの発現を指令するための異種プロモーターを保有する第 2 のポリヌクレオチドを含む異種ポリヌクレオチド。

【請求項 9】

請求項 7 に記載の異種ポリヌクレオチドを含む細胞。

【請求項 10】

請求項 8 に記載の異種ポリヌクレオチドを含む細胞。

【請求項 11】

配列番号 4 に対して少なくとも 85% 相同であるアミノ酸配列を有する T2 ファミリーの熱安定性リボヌクレアーゼを単離する方法であって、この方法は：

熱変性した試料を得るために、T2ファミリーのリボヌクレアーゼを発現する細胞を含む試料を熱変性すること；

前記熱変性した試料の上清を単離すること；

T2ファミリーの熱安定性リボヌクレアーゼを有する前記上清の画分を同定すること；
および

前記T2ファミリーの熱安定性リボヌクレアーゼを有する前記画分を前記上清から実質的に純粋となるまで精製すること

を含む、方法。

【請求項12】

増殖、発生、分化、形質転換、腫瘍形成、腫瘍成長、コロニー化および脈管形成からなる群から選択される異常に増殖する細胞に関連するプロセスを、それを必要とする哺乳動物対象において予防、阻害または逆行させるための医薬の製造のための、配列番号4に対して少なくとも85%相同であるアミノ酸配列を有するT2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質の使用。

【請求項13】

増殖、発生、分化、形質転換、腫瘍形成、腫瘍成長、コロニー化および脈管形成からなる群から選択される異常に増殖する細胞に関連するプロセスを、それを必要とする哺乳動物対象において予防、阻害または逆行させるための医薬の製造のための、配列番号4に対して少なくとも85%相同であるアミノ酸配列を有するT2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボで発現することができるポリヌクレオチドの使用。

【請求項14】

増殖、発生、分化、形質転換、腫瘍形成、腫瘍成長、コロニー化および脈管形成からなる群から選択される異常に増殖する細胞に関連するプロセスを、それを必要とする哺乳動物対象において予防、阻害または逆行させるための医薬の製造のための、配列番号4に記載されるアミノ酸配列を有するT2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質の使用。

【請求項15】

増殖、発生、分化、形質転換、腫瘍形成、腫瘍成長、コロニー化および脈管形成からなる群から選択される異常に増殖する細胞に関連するプロセスを、それを必要とする哺乳動物対象において予防、阻害または逆行させるための医薬の製造のための、配列番号4に記載されるアミノ酸配列を有するT2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボで発現することができるポリヌクレオチドの使用。

【請求項16】

リボヌクレアーゼ活性を実質的に欠き、アクチン結合活性を有する、配列番号4に対して少なくとも85%相同であるアミノ酸配列を有する、T2ファミリーの単離されたリボヌクレアーゼ。

【請求項17】

有効成分として、請求項1または2に記載のT2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質、および医薬上許容される担体を含む医薬組成物。

【請求項18】

有効成分として、請求項7または8に記載のT2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質、および医薬上許容される担体を含む医薬組成物。

【請求項19】

前記T2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質は、リボヌクレアーゼ活性を実質的に欠き、アクチン結合活性を有する、請求項17または18に記載の医薬組成物。

【請求項20】

前記T2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質は、アクチン結合活性によって特徴付けられる、請求項17または18に記載の医薬組成物。

【請求項21】

前記T2ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質は抗癌活性を有する、請求項17または18に記載の医薬組成物。

【請求項 2 2】

必要とする対象における腫瘍を治療するための医薬の製造のための、治療上有効量の請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質、または請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボでそれを発現することができるポリヌクレオチドの使用。

【請求項 2 3】

必要とする対象における過剰の細胞運動性によって特徴付けられる病気または状態を治療および/または予防するための医薬を製造するための請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボでそれを発現することができるポリヌクレオチドの使用。

【請求項 2 4】

前記リボヌクレアーゼ蛋白質は、アクチン結合活性によって特徴付けられる、請求項 2 2 または 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 5】

前記リボヌクレアーゼ蛋白質は、リボヌクレアーゼ活性を実質的に欠き、アクチン結合活性を有する、請求項 2 2 または 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 6】

前記リボヌクレアーゼ蛋白質は抗癌活性を有する、請求項 2 2 または 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 7】

前記過剰な細胞運動性によって特徴付けられる疾患または状態は、炎症性疾患、神経変性病および癌からなる群から選択される、請求項 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 8】

前記過剰な細胞運動性によって特徴付けられる疾患または状態は、癌である、請求項 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 9】

前記医薬は、経口投与、静脈内投与、皮下投与、全身投与、局所投与、経粘膜投与、非経口投与、直腸投与および吸入からなる群から選択される投与様式によって投与されるように設計される、請求項 2 3 ~ 2 8 のいずれか一項に記載の使用。

【請求項 3 0】

抗癌治療と組み合わせたの、前記抗癌治療で治療される対象における癌の治療を増強させるための医薬の製造のための、請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質、または請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボでそれを発現することができるポリヌクレオチドの使用。

【請求項 3 1】

前記抗癌治療が、化学療法、放射線療法、光療法および光動的療法、外科的処置、栄養療法、切除療法、組み合わせた放射線療法および化学療法、近接照射療法、プロトンビーム療法、免疫療法、細胞療法およびフォトンビーム放射線外科的療法からなる群から選択される、請求項 3 0 に記載の使用。

【請求項 3 2】

包装材料、および：

(a) 請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質、または請求項 1 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボでそれを発現することができるポリヌクレオチド、および

(b) 少なくとも一つの化学療法剤

を含む製造物であって、前記リボヌクレアーゼ蛋白質は、相乗様式で前記化学療法剤の活性をさらに増強することができ、前記包装材料は、前記リボヌクレアーゼ蛋白質または前記ポリヌクレオチドおよび前記化学療法剤が対象における癌を治療するためのものであることを示すラベルまたは包装挿入物を含む、製造物。

【請求項 3 3】

包装材料、および：

(a) 請求項 2 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質、または請求項 2 に記載の T 2 ファミリーのリボヌクレアーゼ蛋白質をコードし、イン・ピボでそれを発現することができるポリヌクレオチド、および

(b) 少なくとも一つの化学療法剤

を含む製造物であって、前記リボヌクレアーゼ蛋白質は、相乗様式で前記化学療法剤の活性をさらに増強することができ、前記包装材料は、前記リボヌクレアーゼ蛋白質または前記ポリヌクレオチドおよび前記化学療法剤が対象における癌を治療するためのものであることを示すラベルまたは包装挿入物を含む、製造物。